毛詩集 全

俳諧発句題林集冬之部

閑夏 冗
東蓋輯

十月

初冬

きりぎりす乃機よ入くやきりく す　蓼太
初冬や日和ふなくらく京ゝ道　蕉村
きりぎりす二ッ三ッよ生くらくやくり　嘯雲
初冬や兵庫の魚売のおゝくそ　石波
初冬やきみちふのまゝ小日乃尚　青蘿

小春

時雨て八小春ゝ乃ふ且う邪　一茶

海乃音一日遠き小くるゝ雷　曙雲
祖母達の忌日くれ小麦買ふ　蘆春
猫の子に縄押くるる小まくる　良文
ひのもとに志賀と小麦刈る秋ぶ　二柳
啓蟄乃小麦敷よとたんうる　庭井

小六月

まさ縄乃金なりもと小六月　連山
生うるもくまりの山れを小六月　月巣
かし咲梅も先より小六月　歩月

神無月

明寺教大根うまし神無月　沾徳
宗任千石代々神無月　菊村
稲ち小雪ぬ世ぬ月　凡兆
切ぬく柳ハ字ぬ切りつき　草来

神送り

神送り　神送り留主
神送り毋遊を行るる帆の芝り　冬李
きれふる厩を呼ぶ子神の留主　文波
本ぬ紅葉もをハくぬ志ぬや神送　茶城
一百ぬ行たるりぬ神送を　依芬
神豆寺道の陳ぬもるし神の留主　支朗

更衣　孟冬之旬

稲居れ冬も忘れぬ古事ぞ　社牛

燒糟を食

燒糟に飽てや老の秋の酒　常丟

陣痛

赤痛やとゝまりてとゝや五代　岩雄

進燒炭　煖燒炭　煖燒會

煖燒會茗荷の猪を焦がして　古茗盃

玄子の餅　沛玄猪

猪に杉くゆかしき玄子哉　芳米

冬ノ二

何ぞたゞくさるほの姫もゐれぬる　洞宗

狼狽乃あるかさゝふ玄子こそ　西武

金姫ゝ牡丹餅たゝん玄子ぞ　芝村

冬さ迄

冬ゝ猪や猪ゝつゝぬ仕成寺　臭蕉

冬さ迄や埃の乳猪乃秋　車莫

射場始

弦音に時を記すや射場始　立圃

弥菊の宴

弥菊や酒に匂ふ玄猪　正玄

遊広島

遊広島や宗長代々の信仰　太祇
宗長の広島や鮎を作らるる迄ふる　来山
遊広島や和尚の行脚ぬかるる　召波

十夜

我恵を渡るよ御ゝ十夜ふ　蕪村
何ものたゞ〳〵茶もふくと十夜哉　蕪村
人寺に小ちゐ小ものるふ十夜哉　召波
寺守りの子ふ門くなのふ十夜ふ　太祇
我人の業と十夜の彩れ石　巴丈

武家とても十夜八ゆき来れふ　移竹
涙〳〵く経念ふ夜ふ　麗物
吹時〳〵十夜乃音れふ　南栄

興福寺法華会

法華会も太刀や佩らん芳長哉　立圃

維摩会

・維摩や床も苦〳〵ぬ祇園精舎　素丸

金剛羅会

金剛羅や家ふ〳〵涙し桜　沾徳

沖新講

法華講や咲きそめし木末の桜　素仲
法華講の夜桜見やゆ女郎　太祇
人京や月夜明るき法華講　几董

下元日

炉ばたて雪ぢいさくら下元日　貞室

東福寺冨山忌

糸桜ちりぬ冨山忌　竺秋

夷講

堂上ち法華講　曉雲
あれなひや居く恵出て夷講　樗良

七日伊勢や海ゝく恵ゝ講　菱
朝社参ゝ一日みるや夷ゝ講　柳几
夷講必祈ゝ恵ゝ講や粽枝乃家の恵　百波
恵ゝ夷講や粽枝乃家の恵　東蓋

大社神事　神集

神風乃吹ゝまゝ大社　仙霧
集ゝ神社参詣や八百美　左徳

神迎

一日社日和ゝ神迎　渋し

法勝寺大柴会

燈籠　巨燈

燈籠や一座の秀句人の歌　嘉定
燈籠や世話通ふる夫婦合　太祇
炉辺や一役身し義経記　素丸
燈籠や市よりきまる松し坊　重厚
燈籠や志ふる也初ふる今糸　此志
炉籠や主表一寸呼いふ　曙夕
燈乃友や新ふうきふる義面　月下
籠戸や巨燈の中を風の影　太祇

宿書に巨燈ふる記左所　蕪村
言ふ記ふ言ふ清したる巨燈ふ　一の文
き夫婦世話信古ふふり名　竹裡
巨燈しふ名ふ譯の訓深ふ　呂波

埋火　炭桶

文机や机乃下ふ相炭桶　宋文
埋火や栄表ふ焦ふ鼻ふら　素蕉
ふり炭や名ふ花翔乃月　見風
ふふ炭ふ梁の蔵ふいふふ　太曽
埋火や何ふ清したふ光の梁　麦水

眼のあまれる樹の相火桶　呉来
つまくりまきしたぬ中の火鉢かな　以山
火桶をかこ磨ひしき月日かな　呂波
行くらくや火桶よ法師蒲団子　二柳
ほりくとなる迷ひく火桶かな　移竹
きくの歌あてあれ火桶かな　嘯雲

丼燈裏

大尔あ乃足枝ゆくあらかるかな　呂波
こあ支ゆ足ゆくるかる丼燈裏かな　左右蓋

口切

口切や賛斗目の裏乃貧之さ　洒堂
口きりやくんをとかるかな　撰み　太祇
口きりや蒲ゆくれく法華味噌　移竹
口切や小坂下なるゆ只なるゆ　莨村
口切や小ゆを吋るのるくゆる　雨人
口きりやちくゆくれく竹の裏　呂波
口切やちくゆる新家乃風　素凡

初時雨

打雲ゆくゆ一みまつて初時雨　宗吏
濃初くゆるゆ定めすゆゆ時雨　樗良

初時雨　芭蕉村

黄ばみのこりを黄に初時雨　移竹

ちき猪よりもいかり初時雨　白雲

芭蕉ぬくうなりあり初時雨　吏中

柱なりうち打ち淡くや初時雨　蓼太

十月や芭蕉葉ばかりの時雨　定雅

時雨するすもきき初る山路哉　石波

朝ねすぎ行よりうち初時雨　左盃

楊さらやや紙帽子ぬくうなり初時雨　麗雨

一ッ家乃行灯中うて時雨哉　李酔

一書つくさしくさるる時雨哉　宋阿

世話乃野辺ゆ徳ある時雨哉　樗良

九条より小ぶるこゑ校のまくれ哉　雲鼓

伺人の寝ぬ燈火を小雨時雨　夢太

女ともくもらぬ時ぬ時雨哉　文子

を乃ぬ和もさびしくて時雨哉　野紅

書る鳥乃ハかなるやゆふ時雨　文芳

子の釈乃ぬ笠ぬぬぬ時雨哉　夕雲方

加色まさる初時雨の水　連女
雪ふる志のひまなりやゆふ時雨　太祇
初しぐれさびしそうなれや夕時雨　移竹
志ぐるるや裏買ふ人の談ふを　芭村
生ぐる世千疎ぐれわきぬる夕時雨　石波
朝日やあるうち晴る夕時雨　宗文
時雨ぬるうちや朝霧の月　左蓋
夕川や雪ふる雲ぬるる時雨　嘯雪

川音時雨　松風時雨

晴初るや川音の時雨れ　有橋

流れまさる川音遠き時雨　白雄
眠らんとすれば時雨ふり遠乃松　宋阿
住吉ふる時雨ふり遠乃松　篤雅

志ぐれ

志ぐるるハ日新も信を志ぐれ　鬼雀
時列乃中切志ぐるしまき雨　朔宇
一志ぐれ跡先志ぐ雪降うる　宗瑞

初霜

霜やまさる者能乃竹ふる月　野朗
はつ霜乃色乃ふるとて根岳京　麦林

霧

きり雲やあきぶぬぎ捨る玉松　竹亭

赤くと雲ぬぎ捨てもろ葛の葉　宗文

親と雲ぬぎ捨てをかこつ野ぶ　陸石

焼うして消ぬ雲乃梢哉　氷芽

何さうの稜うつる雲ぬ嵐ぬ　曉雲

日ぬさして這出る雲のいとゝ哉　有庸

朝雲やぬぬぎ捨ぬ者ぬ　二方

茅の素ぬ雲ぬ雲ぬ山うつる　几董

新雲や屋根つゝひ乃雑の息　義門

あてまるくゝ霧入る雲哉ぬ　牧童

霧の路ぬ何あり雲柱　四方

砂を摺舟座ぬ雲ぬ声　提亭

戸さしても入る眉ぬ雲哉ぬ　蕪村

芽柳も移ぬ初ぬ新の雲　二柳

笹舟ぬ雲やつゝ哉母のぬ乃先　太祇

朝雲やつゝきと梅ぬつゝ縄　蕪村

ぬ走ゝ寺鐘ハ雲ぬ雲ぬ　石波

蕨葉　木の芽

嚏ハ孔　拯乃ふゝ蕨葉ぬ　宗文

西ふけハ東くもまれ落葉哉　芭村
落葉ハ葉ハ葉ハ葉ハ　曉雲
ちりてるゐ西ぬくもり
ちりてむ落葉ちひれ芋屋ハ　百波
落葉哉杉ハ杉ハ杉ハ杉ハ　北鯤
物絶て落葉鐘寺涼山うゑ　一義
寺宗さふ落もさめぬ落葉ハ　几董
落つるぬ本ハ葉ハ尚ふ寺ふ　風水
石佛ハ絶ふ杉ハ本乃葉ハ　曉花
淋しさハ吹ぬ小有本ハ葉ハ　二柳
ちきよをふ蛤茶屋の木の葉ハ　支考

冬ノ十

木枯

木がらしや花ふ宿の戸よさ冬　百波
こがらしや西山あさく夕陽日　宋文
木がらしハ葉根ふ波や伊豆の海　太祇
木枯乃湯の山ふし海女の家　移竹
風ふむ山ふ海ふ辻郷ふ　曉雲
木枯ふ少ふの海ふきの葉ハ　秋史
こがらしや海一ふひふ出る月　士朗
風や何ふ世ワふる家ふ彩　芭村
木枯乃ふもゆふふ窓の破　蕪春

木がらしや海うつさぬ山の姿　生角

木がらしや紫川うつる夫れ　几董

風やなすすつき木の実盛り　巴角

木枯乃星流吹出す夕うら　青牛

木枯や池うつしし石塔婆　乗木

こがらしや佛社前乃吉りう　岳輪

風ものうつるとなりたふ秋ぶ　社芝

木枯やひもてる雪を吹ちれ　樗良

ふるしやあの立秋ハむく鳥　心水

風やみりへ八月をあるあ秋し　也有

木がらしや中ふかうしれる柱　左蓋

紅葉葛

時雨ぶるてふ紅葉の葛ぶ　樗良

詩や欲乃ひとよ葛ぶ紅葉ぶ　風狀

柳うつり

柳うつく六田社辛色ぶ　涼菟

嵐ふ書の居ふうれ柳　太祇

乃秋乃田畑ふうう枯柳　存義

安礼ト橋ふ落ふれ柳　嵐山

れふ月も柳ふぬやふれぶ　その女

桜木の梅　多醉
枝打ハすほゝかなる木乃梅哉　嘯雲
ゝ一輪風乃風ゝ梅もちる

枯野　枯野の家

枯る野ゝ命をとゞめ枯野哉　夢丸
人毒ゝ乃ゝ乃ゝ枯野ゝ哉　仝
ゝ一野中ゝ松の枯ゝ哉　宋文
る枯尾ゝ荻のゝ哉枯野哉　苗村
絲塩乃月まてもゝふゝれのゝ　移竹
ゝ乃ゝ人を月ゝする枯野哉　太祇

桜野や世渡る人のゝ哉　如竹
寒庵ゝ乃ゝ芒ゝ枯野哉　呂波
ゝ乃ゝと夕雲ゝ哉枯野哉　嘯雲
ゝ乃ゝ野ゝ枯ゝ人のゝ哉　雲之
白根ゝと地蔵ゝ乃ゝ嵐哉　松琵
ゝ乃ゝ雲ゝ乃ゝ哉　秋坊

登茗乃ゝ乃ゝ哉　麦酒
白曽ゝあなゝゝや枯ゝ哉　麦丸

枯尾花

なりくて根つよくなりぬ枯尾花　曙覧
舟さしよる淀野はなやうれ尾花　几董
夜あけくや霜なりそめ枯尾花　江子
夕紅葉後の枯尾川ふる尾花　蕪村
見えそめる天の川の枯尾花　左盍
花うるる
うれくや落ちそめ花の枯の音　芦渡
夜の霜蟲ふるえて秋の枯　曙覧
枯芦
書天下門辺の芦の枯葉ふる　仝

うれかの枯行く月の影もかな　呂宙
枯そそかしなき浦乃芦の葉ふる　百人
枯　うき花
いさうるるもうれる石枯　呂波
夕照て紅つく波の色葉ふる　玄東
芦ふる寒霜よかもとく石佛　為有
枯や蘭亭巴ひらく川　何童
むすんふるかる枯る禁忌　如竜
ふる色八枝て何とあり枯ふる　杉風
山乃色ふるとうるる枯葉ふる　路通

[illegible]やかくても[illegible]庵庵　茶法
[illegible]くつくつく竹の[illegible]亀　又堂
[illegible]ふり[illegible]る[illegible]や枯志の[illegible]　沂風
[illegible]れく古めふ庵う邦　曙雲

冬枯

冬枯や[illegible]人[illegible]ふ　令
[illegible]枯や井[illegible]川乃庵　移竹
[illegible]れや岩乃歩行戸樋の中　太祇
[illegible]や住人[illegible]大根畠　明如
[illegible]の[illegible]井ふり[illegible]　重厚

冬ノ十四

ふ[illegible]や禅ハこ[illegible]大憲寺　春益

枇杷の花

枇杷乃花[illegible]　巷村
[illegible]ことかくこころや枇杷の花　賀瑞
梅[illegible]ふ[illegible]き僧や枇杷乃花　石波
叡山や[illegible]も[illegible]ハの花　桃里
[illegible]仙の[illegible]や法[illegible]　松東

菜の花

菜の花[illegible]年のさ[illegible]　曙雲
ちゃの[illegible]や菜の[illegible]ふ[illegible]菜　沂風

蕣も咲もたゝ菜花の白の〻ゝ　一朝
菜花乃世ゝ〻ゝ出ぬ白しぶ　巴秀
菜の花やふるも莫ふと芝来る　巷村
菜花乃ゝ〻ゝ雑子鳴し谷の坊　呂波
菜乃花や風ゝ花の葉打囲ゝ　太祇
菜の花ゝ〻ゝ表撰り三の八なゝ〻ゝ　儿董
ほの〻ゝ菜花ゝ〻ゝ伏る　西吟
菜の花や時ふくんて日ゝ白し　山屋

山茶花

山茶花や乃ゝ〻ゝぬるの二日ゝ〻ゝ　乃ゝ

山茶花ゝ〻ゝ蘭ゝ履ぬ〻ゝ谷の坊　狂人

牡丹

ほの〻ゝ菜ゝ〻ゝかゝみつゝ牡丹　維舟
牡丹ふるゝ雪ゝ〻ゝ　芭蕉
大舟ゝ数ゝ〻ゝ牡丹　西武
なゝ〻ゝく牡丹ふ延ぬ〻ゝ蝿　二柳

牡花

蕣乃世ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ帰ゝ〻ゝ　羽仙
やゝ〻ゝ木ゝ伊口ゝ帰ゝ〻ゝ　樗雪
陽ゝ〻ゝ〻ゝ一梅ふゝむ影ゝ〻ゝ　宋文

降りそふる雪は花にまがふらん　宇大
くりそふる春は梅のまがきとは　蘇合
散つまれくゝ秋はそ降る雪　凡董
忘草乃ゝ梅乃帰るや　嵯川
何乃木とゝまりてもなゝ降る雪　明水
答くゝそ志ゝてかきり降る雪　太祇
降りそふる雪は春ゆゑ咲ちるぶ　芦涯
くりそふる雪ゝ時々ゝ花山ふれ　双鳥
ゝたのゝやゝ人は逢ゝん帰るゝ　也有
雪ゆゑ降りくりそふる　白朗

降りそふる雪は梅の花　路川
そ志ゝ梅ゝ志ゝくりそふる　呂波

八重の花

切ゝ咲ゝ花ゝ咲ゝ八重ぶ　嵐山
ゝゝかゝ仰ゝ見ゝ八重ぶ　蕉竹

実菊

実菊ゝ面ゝ実のこほれ　曦雲
実菊や口きゝかゝ答ゝ　呂波
実きゝゝや昭ゝ実乃米も　雲良
実ゝ菊や ゆゝきゝ実の梅　除風

ゆき菓や氏屋の水乃落書　蕪村

石蕗の花

さく〳〵ときこゆるかれ石蕗の茎　蕪村

苑石の横尾すこし〳〵石蕗の花　移竹

石蕗さくや淀川横〳〵富士遠望　立空

易水し〳〵塩の余をつもり乃花　蓋兮

蓴漬　蓴菜

市第〳〵ひろまる蓴菜哉　石波

蓴漬や書なく住ぬ少ふ姫　太祇

ちり始蓴菜そろひふり南瓜　志計

くきくもるみそ八庫〳〵や芝居茶や　芦涯

大根引

人参や壱丈こえて大根引　風国

目新茶ゆくゆくふり行る大根哉　惟然

撰屑をひろひ〳〵引や野大根　沙莚

跡八野〳〵なるもりまで大根引　一嵐

蓴菜日〳〵新の芒ちる大根引　朝篇

春風吾に見せまそう大根哉　几董

蕪引　二十菜

小流れをたやすく〳〵引　一葉

河内女や千筆よりつき窓の横　大曽
湖水みるまくさをるまくるる　玉末

冬菜　水菜

香取田ゝハけるゆるゝ冬の松　曉雲
春人の素手味つくる冬菜　春興

蕎麦刈

秋ふるくくとハ刈残るいとゝ冬　沂風
蕎麦かゝるや猿の及ぶ暮深海　唯雲

麦蒔

麦まきやや百まて生る新米　蕚村

麦蒔や猿舎山乃こゝかしこ　吐月
麦まきやあて居遠ゝ月乃業　太祇
むき蒔やあるゝ日ハ未ゝ夜海　椹李
麦まきやこ紙小ゝて絡ワ　雲良

冬木立

蕚入ゝ冬ゝ蕚ゝ冬木立　蕚村
枝ゝゝ冬木色てもなゝ冬木立　冥史
郊外ゝ海原の蕚や冬木立　石波
ゝゝ京の冬山中蕚冬木立　曉雲
冬木たち海を渡るゝなるゝ　田福

冬至ちか月畳敷に入来る　几董
冬籠つく寺や冬木立　太祇
砂ちりや雲の片辺乃冬木立　凡兆

納豆汁

窄人乃ゐすを見こく納豆汁　杨竹
結の叶ちりす花女や納豆しる　太祇
納豆ちるふなしゝくてゝ海あり　几董
隆住人ときけば大納豆汁　蕪村
朝寒や家の杨屋乃納豆汁　蕪村

初雪　ちり雪見来

初雪や見来をとゝ乃昔のさま　巴人
ちり雪や雪ともなりぬ星月夜　青蘿
初雪や古菊の乃葉降つゝふ　二柳
ちり雪や海のさ乃見人の妹　太祇
初雪きれ京百遠よなりふる　杨竹
初雪や物乃葉ゝ立ち乃上　沂風
初雪屋塊ゝゝ拾かゝし　酌甫子
ちり雪やみるやとゝ乃昔の路　伝沼
ちり雪や既ゝ清き乃峯より　石波

小舟雪を恵まさうり雪の深さかな　宗文

初氷　蓑氷

ひさ敷の朝ゆ重りたり氷　大祇
乗舟こほたなれなりたり氷　喚市

初氷一枚別厚　氷　移竹

蓑氷やふまれ世渡る親の恵　蕉子
穂ばちちかましやうす氷　曉雲

月さゆる　冬月

数ならぬ木ゆや冬月　莵村
温石乃ぬきれぬ日の月　呂波

冬月

月ひとくまんるひとし　莵村
月をくまふ東竹枝光りぶ　曉雲
呼すまきの竹乃中ゆ冬の月　東蓋
冬月月をふ人の何ぶし　双鳥
戸あけて猫のようや冬月　四睛

氷ふ

氷ふ屋上ゆ月孤つ　呂波
法乃竹ゆ大方消えく氷ふる　金英
日校の根乃ゆとなくこおりう氷る　丈波

寒

毒沙弟子一人の上
鴨川乃一流千載之清流
辻能の名高き事も推て知るべし
京師に流れ上る人数多
四季ともに嵐山桜盛り
うつろふ色乃美しき事
松尾の社引き乃洗む事
水の完璧明らかなる事
百尺の滝の高き事数里
遠く望む人多し

几帳
風国
嘯竜
東山
藤村
芝尺
蹄通
二柳
不祇
立雪

水仙
市人の多き事
羽代乃
多社月の
樹乃高き事
多時に多き事
男女子
何乃中大根
乙ノ子
嘯乃人数

蹄通
宗史
嘯竜
藤村
逍之
三角
知義
呂牛

後ゝき表八ゝをたゝき頭代まを　福竹

釜

金ゝゝ魚のきゝむ釜ゝゝ　梅枝

紫漬　下木

ゝゝ漬やゝゝゝれ絵ゝつゝかまゝ　福竹

ゝ尾ゝ漬ゝゝゝ下木ゝゝ　西武

紫漬やゝゝゝゝ漬ゝ今朝ゝ書　鯉角

紫つゝゝ魚ゝゝ一ゝかゝ　和及

氷魚　氷魚役

ゝゝゝ八漬ゝゝゝゝ氷魚ゝ　潭水

後ゝ雪ゝ雪ゝ阿さりや　氷魚使　五嶋

浦人ゝゝゝゝゝ氷魚役　五株

御　村ゝ　川ゝ

風ゝ表ゝ月のゝゝ　苔村

ゝゝゝ氷ゝゝゝ　宗定

ゝゝ嶋山ゝゝゝゝ　嘯雲

ゝ阿ゝ　桃賜

むゝゝ弟ゝ笠ゝ紫ゝ　盛春

立波ゝゝゝゝゝ　太祇

ゝゝ嶋風ゝ　しさ

要之ゝ松の火ともるゝ
江南八景時雨
霜すゝ赤き八幡の紅葉
川ゝ
山川ゝ
ゝ

小夜ゝ

小夜ゝ
月を
住なれて人ゝ

几董
呂波
蕪村
杜梅
梅雪
東益

浦ゝ鳥

完来
曉雲
宋文

ゝ
時雨
秋ゝ

水ゝ

ゝ
水ゝ
ゝ
水ゝ
水ゝ
水ゝ

芙蓉
秋花
蕪村

全
路通
置女
呂波
曉雲

浮舟ゝ

うきたるものゝ定まりなきあるかなきかの泡も消えやすきものゝ
浮藻をうとおもやまゝの遠し　呂波

野

うき野やゝ風吹雄に射倒さる　嘯雲
野くゝ草枯千かゝに成家もあり　奥見
毛成立て鶏くかゝの城とされ　呂波
野乃毛を捨ると元なりれば　太祇
夕風に一つを時ふる小野かな郎　祐吟
ひらむら　うんつう

ひらむらや春は凝す海の面　摩之
弱き根はいとしくふる雪ぶる　冷丸
弱乃川裂こそ山うゝ　芦涯
野ぶ雪や雪ぬ方よんつう　几董
かゝつゝ深雪ふまて見くるぬ　嘯雲
新なきやかくるくふんつう　支枝

雪巻

うくとりふてゝもたやゝ凝雪　嘯雲
雪巻ぶなゝひてこゝる妹背乃　二川
落木ぶをゝ川ひきく落れう　卯央

波うけてちる川ぶねの嵐うち　左右盃
鶯や岸の二すぢを川ぶね　止林
ちらちらや流れ出うむ一番しぼり　百万

鴨鷹

鴨鷹や霜ふかれたるうみ　西武

鶯のよ時

鶯や月ハ光る親乃者　太祇
うぐひすのよを時ぶれハ和ふ　畢庖

春興引

春乃錦春興の大乃叫ふ　工秋

一本ぶり生海や春興のよ蓋者　存義
雪ぶれ上かぶるぶれ目之春奥ぶ　井水
春望月夜忘もぶ春興ふ　工秋
春興引　犬乃春ふ堀の内　苔村
伝後よかしつき初る春興ふ　芦涯

生海嵐

生海嵐千のぶ時乃二月風　嘯雲
泳勅待ぶれ春ぶ生海嵐ぶ　二柳
月夜ぶれ光ぶ乃ぶぬ生海ふ　太祇
波川ぶ岸ふ春ふなぶ　岳水

うかゝと海に浮るさまは蘭ぶ　一蘭

鱈　鱈狗

東海や法鱈乃寿ぶ表もすゝ　鬼崖
初鱈や弓張月の寿ぶ　百花
きゝつるや今ぶつなゝ海の上　宋文
鱈汁やくの乃ゝとかゝす　涼花

鮟　ふくけ

対ぶきゝ洗ゝ魚乃ゝ河豚の板　嘯雲
車乃ゝぬ世ゝもむゝやふくゝ汁　移竹
鮟汁の高いきゝく力ゝ森そゝ　芦村

河豚喰ひしゝ人の森ゝ表ぶ　太祇
ふゝ乃ゝ味の外ゝ乃ゝ外ゝとゝ　黙子
鮟ゝ表ゝ之表さの美や芸乃ゝ山　二柳
鮟汁ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　呂波
ふゝ乃ゝ目の毒ゝ乃ゝきゝ表ゝ之ぬし　蓼太

鱈

塩味ゝ食乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　由平
ゝ乃ゝ毛ゝ生ゝ十ゝ八ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　西武

楷

楷焼ゝ乃ゝ住居ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　呂波

紙子着つゝ掛うち棒にかうり　曙雲
冷るふ夜の丈夫なる棒火うる　左草盛
ほゝと炭火もみるゝ寒の夜明ぶ　虎生

炭竈　炭焼

炭竈や翌乃粧の物棒ゝ　曙雲
すゝうまやり日ゝ山かろし　映波
炭かまや寺の老ハゝそゝもゝ　八桂
炭焼乃若ハ炭ゝ月粧る　楚侯
炭うまや拾ゝく焼る夜の餅小裏　午仙

炭

炭賣

夏ふ夜や炭もく炭と砕く音　夢志
炭屋ゝなるふ語るゝしゝ　仝
きもくす振炭ゝゝ炭俵　宗文
炭ゝゝや京ゝ十ゝの這入口　石波
ゝなゝや火鉢中かゝく炭刻す　大尊
沸ゝさやかゝんとする炭の音　富翰
小野とゝ名ゝ石ゝゝ炭俵　和鐵
炭の多や茶ゝりゝまのゝ所　左秋

綿

孫好子

綿ゝゝ何ゝゝゝ彩乃る　用舟

星下り社聖一ッ紙や孫惣子　呂波
てくと志うれ〳〵ひとやひろ遊　温故
綿らや簑とるふ竹社奥　波〻
孫買ひ合羽干聖誘の夕日ゆ　紫曉
園社表やく人鬱うん孫惣子　岳示

藩壷

表明めて藩壷とれり猿の美　太祇
鶴井沈ふ表まるふとんふる　呂波
四弟五布身の住家社ふとんゆ　春美
表とくこ言家ひひとふ藩壷ゆ　几董

古ことふ一番ハ文ふふとんかな　苔村

念長

今ゆうりまろめきく〳〵紙念　一角
ゆくやうきん袴くや紙ゆすり　苔村
文ひとりを包ひかまり破念　既白
我世うし思ひ示めき〳〵文念　斗流
まれまを鶴興きこす〳〵文念　曉雲
うりくと咲する寺や紙ゆ角　家文

紙衣

紙子ふし寺や番丹の隅の方　太祇

今年も出る紙ぶ　一竹
なるべく小紙にて角力ぶ　石波
ちまあ紙うえる紙ぶさくぶ　嘯雲
陰あるなるべきてのうえぶ紙ぶ　乗泪

頭巾

町ちりまきれてや紙巾小風呂志き　苔村
紙巾ふりしてもゆたんあを耳　石波
法衣をんをくまきる紙巾ぶ　太祇
山さしや紙巾とうきんとなる　紀逸
陰色紙ぶきて何ぬ紙巾ぶ　逸言

寒ち紙夕べこれつきんぶ　未李

焼足瓶

未ぶ変ぶを紙ぶを系ぶ陰ぶ　夢古
嘯乃すぶ中ぶけぶたんぶ　樗良
陰かきんをぶ系ぶ志ぶ陰ぶ　麦水

冬籠　冬搗

春ぶ乃ぶ花ぶ八百籠　樗良
世ぶ様ぶすぶ陰ぶん冬籠　嘯雲
冬ぶ乃ぶ雪ぶ陰ぶの山ぶ傍　苔村
先枝ぶ乃ぶ梅ぶん百籠　瓦笑

[illegible]八仙のすきなんをこそうり　紫雲
[illegible]菓乃ひとりなるを[illegible]　吉蔵
初霜乃縁をく海をしの[illegible]　春因
引く肩やしなかや[illegible]　夢志
来く[illegible]　太祇
おくろきき汁乃[illegible]　楊竹
芝果つこし彩[illegible]　紫霞
ふ申かゆ茅小樓の多い村　弥頃
[illegible]の[illegible]八仲吹[illegible]　涼軒
[illegible]　亜浦

雪垣　雪竿

雪うは紅や紙う用意[illegible]　康工
雪垣[illegible]　麦[illegible]
雪竿や四[illegible]小姫を切む　鬼薩

十一月

暦姿　暦賣

暦姿や[illegible]目[illegible]大[illegible]　[illegible]
暦姿や[illegible]軽く[illegible]　涼軒
暦[illegible]月日を[illegible]　[illegible]
[illegible]月日を[illegible]　[illegible]

年〳〵や蓬きもうす暦賣　存義

朝且冬至　冬至梅

ふる〳〵や朝且冬至の　夷家

信濃路の雪ふる〳〵も冬至の　太祇

熱茶新米ハ冬至を雑煮哉　雅因

新古表の蛇足哉請ふ冬至の　蕉村

餅ぬるゝ冬至と実や蓮菴　召波

蓮乃うしろ〳〵ふる〳〵冬至の　几董

老人ちり〳〵勤く冬至の　一茶

苔本ふなるなり冬至梅　暁水

白見野

新見やすてよ浮世乃飯付ル　蕉村

新見をや伏見鞍馬秋の旅　召波

海を義の新見も白紀屋つき　秀酔

かぶらんをや樽ふ紀ル素乃素　几董

白見野新見や紀ル素の素　菓里

新見をや白髪の人ゆ紀をもだし　蕉雨

ふる見ヒやへ人ゆ素亜朝ほろけ　仝

繋亜　ふる〳〵の海

繋亜や花なし自日小之結組　和及

産神社奉りて公賢卿　歌人
繁亞やちよ代々の捲むすび　重厚
繁亞乃かゝ亞ひやふ大路哉　夢夕
宮線茂流

日新亞くたりとみるむ系社丈　定武
暦と数ふ　禊茂まれ

ふくハ星たまする人母金人　言永
活長年仰く姫ハなし　雅義

相嘗舎

お嘗やふハ嘗と都まれ　西戈

冬ノ三十二

宗像系　一年よ二度社むまる系ふ　安宝
山科系　山しなる社系埋ふれ乗乃雪　徳元
平野系
春日系
杜本系

菊摩多祭　友元

ふるはきの人くさ菊ヶ祭ふる

稲川祭

梅宮祭

菊宗祭

中山祭

松尾祭

大原野祭

大原野や祭ふる社あとの追ふる狩　西武

園韓神祭

雪ふるとのうらかと祭ふるかな　左武

日吉隆付祭

隆付とも日吉とうと祭ふる雪　定武

賀茂隆付祭

雪ふる〻如祢宜のたゝとやかと祭　方山

東三条市神楽

寺町乃注末津乃市神楽　巴人

里神楽

たゝの市吉の殿女なり里神楽　曉雲

里神楽ちりや仕てよ芸くゝり　ふ雅

楽人のたゝぬもたゝ里かゝ　文峰

小忌衣　山蔭の袖

き神子の化粧すきゝ小忌衣　貞恵

山蔭ゝ神をもとりふり神仏　雲鼓

日蔭糸　日かきのゝ

うきすくを吉祝ぎあゝやはのゝ　維舟

なりきゝ代小子ゝ日蔭のゝ糸　雲蔭

神楽

天は星も並ひやゝん神乗雲　曉雲

秋神乗や杉とまゝれ幾乃京　二柳

宗ゝや嘉さゆる秋の神ゝゝ　亀古

小秋ゝゝ星小山ゝ集ゝ男　完来

神楽歌

小縄なる神ゝ乗ゝん引　鞍石

遊火　阿古女

文る表の彩ときるる庭燎ぶ　文九

採物歌　榊うたふ

ひさこ　行形　清孝

雪風や採物うたふ榊こそ　蓼丸

韓神うたふ

丹奈野　太蔡法　仙奈波形

奈ゝ和奈ゝや丹なる蘇波明ゝ　元山

小蔡張　薦枕　総角

ゝゝ奈ゝ　きるもくす

不奈て神奈ゝ小蔡ゝ　和及

津乃潤ゝや四海の波穏奈ゝ　二奈

奈巣　早歌　星

奈奈　竈厩　朝倉

奈奈や巣計ゝ奈ゝきのゝ奈ゝ　夫蕉

霜表吟奈ゝ　ゝゝ乃　蜜　方山

巣ゝ奈ゝ奈ゝ拍子紙ゝ半ゝ榊ゝ　知原

吉田奈

宗源ゝおり〳〵ゝ紀奈ゝ乃　千濤

日吉奈

雪吋る嗜巣ゝ日ゝ奈ゝ　元友

立節

舞書紙帳むふりたる立節ふ　矢蕉

殿上渕酔

渕酔や宮仕ふる蔦さふる御達　立圃

狩し仗

縣女乃こうまつるきり狩仗　巴人

紫ふう無ふと長くまん狩使　西鶴

童女市覧

ふの振や菊ふき返る大使風　雪舟

左かうき風ふるふくを茶市覧　雪鼓

鎮魂祭

ひとふるふるをちつゝ鎮魂　竹亭

新嘗會

稲乃多ぬ菊ふ篭ふ遊ひぬ新嘗会　宋阿

豊明節会

ゝかゝぬ世ぬ去ぬ豊ぬ明ふ　和及

市火焼

新ふ乃煮ぬ菓子屋も火焼ふ　梅竹

市火ゝ於やつゝ上ゝ例出ふる市　石波

市ひゝ多ぬ京ゝつゝ於京の町　蕉村

法火燒や鉢法う伝へ〳〵　高野子　桃藻

吹草祭

世を味をきゝふ吹草の香ふる　定古

鞘まりを月代青きをかゝる　定雅

山さとゝ家ゝ吹草香ふる　嘯馬

新玉津島火燒

法火燒乃光ゝかりや玉津嶋　天窓

空や忌　鉢半我

只也忌や光ゝまれ古瓢　報石

空や忌やゝまんよ法の香ゝ　為石

雪ふと忌ふ表も鉢半ゝき　夢太

表歩行鉢ゝ空し鉢和　仝

まきるつきあ吉孤ゝいちゝれ　樗良

本鉢ゝしの坊主乃ゝゝう鉢和　苺村

行つきゝ乃一文鉢や鉢ゝ我　右祇

身我修ゝ下法ゝくるの鉢和　湖色

奈良人ゝ貧人ゝ世ゝそゝち和　移竹

鉢ゝれあゝれあゝなき月表ゝ　野徑

表ゝをぬ八雑粥喰ゝんゝたき　法三

鼎半ゝ雑ゝ人川鉢ゝ我　為有

[illegible]
霜草[illegible]と[illegible]
煩悩乃[illegible]
[illegible]
あけ[illegible]

大師講

粥食と僧乃[illegible]ひや大師講
[illegible]の[illegible]粥の[illegible]や大し講
[illegible]縄加[illegible]の[illegible]

沛佛車　沛霜月

[illegible]本
[illegible]角
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

冬ノ三十八

[illegible]
沛仏[illegible]
沛佛車や[illegible]
法佛[illegible]や[illegible]
四[illegible]

沛霜月

[illegible]竹
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

沛霜

沛霜[illegible]
[illegible]乃入札[illegible]沛[illegible]
沛霜[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

二[illegible]

時雨降て雪の市　雪雄
大根乃葉まきり商ふ市　月巣

空曇る
尾花振て神もやらん空曇る　貞佐

山神祭
雪荒るゝ日や山神祭り　二丘

初深雪　深雪
うの葉ぬれもぬれて初深雪　路通
花つきの梅干さる初深雪　嘯雲
志ゝ雪や海さゝ毛宗るる　樗良

冬ノ三十九

親志ゝんすがらの海雪ふる　芋良

雪

冠しを花市ゝく雪乃山　宋文
きれ〻ゝ本下紙ゝ雪の花　嘯雲
捉りもゝ死るて市ゝ雪紙雪ふる　樗良
灯をゝ毛ゝ風にゝり表乃雪　蕪村
蓑来新やゝ月の小雪ふる　文雲
雪乃日や毛ゝの種も剛毛ふる　舟人
ゝすゝ八杉ふる雪乃堅ゝ　几董
市ゝ空家のつや雪樹一　移竹

うつくしきはしらぬ雪ぞ上　太祇
うるはしく咲る山の雪もまた　屠物
咲き雪見之宮伝ふみのしかさ　菊村
大雪ぞ矢拔とをる乃今うす　白羽
衣ぞ高く濃ぬや冬ぞ雪　盛青
人乃坊方よりふるぬ風の雪　祇六
雪ぞ雪ふきもるやは八重の雪　沙洲
ゆきこのはやくんはとうき物ハなし　雁城
二階より多ぞさ〜出し敷傘ぞ雪　如由
茅ぞ戸や傘すぼまり〜ぬ雪の茅　岩ま白

降く冷て死ぬ人ぞ〜雪ぞ上　百九
石橋乃祇園清水表ぞ雪　淡〜
半ばうゑぬ徳表や雪の降傘色　武尼
枯茅ぞ根ほり茅ほ雪ぞ　蕉白
ぬけ乃多総保すぬ風ぞ雪　左吉盛

吹雪

霜うゑと乃方ぞ吹雪ぞ　菊村
出橋乃何とぞ紀清と吹雪ぞ　太祇
雪簑乃色ぞ多ぞたまる吹雪ぞ　淡川
屠高く伝く吹雪ぞ廻ぬぬ　曉雲

[illegible]

九雪　霙

[illegible]　曉雲
[illegible]　芦村
一志きりの矢筈の赤るかの[illegible]　志化
二ツ三ツ霙ふつふやとろり結
石蕗乃葉を打も洗ぬ先雪ぶ　態三
[illegible]　維舟
[illegible]　几董
初[illegible]　水芝
[illegible]　滴丸

石地蔵一ツ[illegible]　尖峰
[illegible]　芦村
[illegible]　曉雲
雪[illegible]　芳吹
[illegible]　石波

凍

[illegible]　雅因
[illegible]　思秋

氷

[illegible]　太祇

[illegible]を氷の積や栄螺[illegible]　秋竹
ふ二見ゝんと氷ゝ[illegible]や流行の海　宗吏
[illegible]と我ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]角
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　夢村
氷ゝ上ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　才知
下ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]友
一人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　玉東
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　几董
用ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]東
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]血

氷柱　夢[illegible]
一[illegible]ゝ入ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　素柳
延ゝて浪[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　一[illegible]
風ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　琴風
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　几董
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

太山樒
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　一鄙
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　巴人
[illegible]仙[illegible]

秀仙や　鄰沢を出て小舟　出て
秀仙や　ちる葉のかるる蕎麦　夢左
秀仙や　宮町屋の又百庫　呂波
秀仙や　傳世小説を出す後　曉雲
秀仙や　京紅白のうかし　芭村
秀仙や　小さな貴を波の音　尚白
秀仙や　古城をたずねて一ちる　素好
秀仙や　白の火床一陣の紙　文考
秀仙や　人系入るうちき　福竹
秀仙や　たまゝ師走のほうぶ　几董

葱

六月八日ふる雨を入小ちり　太祇
小町よ葱を葱洗ふ川や夜ま秋月　呂波
葱乃小くうれ外ふる柔条　芭村
庭雪や葱乃小根もたゝ六条　一茶
山さゝや　葱ぬゝふり秋葱汁　夏秋

雪の志ゝ

ゝ秋よ乃冷も麦す宮の下　既白
霜書乃ゝ尾小川つゝや原古子　篤雅

人参引

鬼乃統引人参や産生乃　高政

生姜堀

紙幅をく雪堀さうに生姜ぶ　嵯峨

米子尼乃くらくや生姜堀　福竹

狩

狩場し雑子

胡蝶我籠を狩乃世立ゑ　夕桂

雑子籠をく付流きゝ沛野山　保春

沛野や堀ふを付ゑて　葵志

化ふ乃ゑなくて狩場乃狐ゑ　斗唫

鷹狩目我ぬ乃ゑ乃爺ゑ　至峯

鷹狩

鷹をれくむなゝく月となる夜ぶ　嵯峨

をゝゝ狩目乃ゑ狩をゝ世ゑ　苔蘚

鷹狩や樫を傳左乃ゑ　一嵐

鷹をゝゝ乃ゑ衛ゑの我をゝし　夢志

砂川を狩ふきをゝふ鷹狩ぶ　旧国

阿ゝ鷹狩をゝきめもふゝぬ風ゑ　高政

をゝをゝやふ鷹小をゝ乃ゑ　嘉東

嘉鷹や人なゝむ雪の軒　学史

をゝをゝや乃もれふ鷹狩声　太祇

鷹狩めや雪ふる中を袖陰　仝

鳥叫

雪降しや鷹ふりて一番　呂波

雪降しやうしなう先念仏　之白

雪立枝墓

ちらふる雪も雪ふる雪ふる　宋阿

迎雪

迎雪に一羽のうぐいす入日哉　一峰

迎雪や鶯一鳴て　元友

迎雪や孫もちかむ菜畑本原　春蓋

蕎麦

蕎麦やこれの詩歌の詩　四方

ちらしの蕎麦も今もつなぎ酒　棠宇

力草けてくれ犬乃うんくれ　岳水

古原く瓜立てきりかくる　麦水

猿鳥

瓜立ぬ瓜立ぬ瓜ぬ瓜ぬ　藜冬

嘯やうれたのくぬくぬ　米猿

家なうぬ家なうぬ猿　明器

今八分牛ちるいのちし猿　二松

ゆくゝ春のしるしふるゝ雪　尚白

雪若鳥

雪若鳥り城迫入男ゆたるを　曉雲

宗祇名八湯をして紙しを若鳥　蕉村

雪ちるふるゝものを雪若鳥　一有

雪ちと咲とくハ梅ふを雪若鳥　一青

雪若鳥明りを梅り巣化る　左蓋

絲

絲賣市ヲ刀ちなしをゝ　蕉村

晴やらの乳ふ霜の海　曉雲

一ゝゝ窓やヨ法の食ち悲　呂波

浮む涼く舟八迷ゝ一のもを　乙考

槌ひゝのを歩ゝ絲浮絲　馬肝

二のゝゝ小ゝゝ川や一のもを　巴蕉

延を社ゝや絲ち雲む一仕事　由平

汐墨ゝ絲の書社ゝ書ゝ　蕪村

初鰤

大食社むゝ法ゝや鰤の子　太祇

芽出度しゝれゝ迷ゝ社ゝ乃鰤　呂波

ゝ月買鰤乃身由社京の町　梶雄

鈔

味よく調ふるものなれば　千清
ゆまてはけうの事なれば　宋阿
常備く永年立ちの鈔所　重程

石花

蒸石花の新の松露ふし　曦雲
うき割や乾くもなき袖の汐　梨一
雲信や丹ハ坊原火のうね迄　一青
命あるまとハうしの石花　岩山

杜支奥

のくふりの乃ゆ新と許迄幾さ　従吾
なりつてあるもやなうん杜支奥　白雄
杜支奥拾ふもうりの行れる　立吟
かくふりの腹なうん豪ゆ　春盛

藥喰

夕沈奥集しつなりの氏　呂陵
猪拾ふ師を乃渇や茶喰　太祇
妻やるる新寝就もうん茶喰　夢村
乗所乃必ん用ゆやなり喰　猪行
何なりと所ハるまやなる食　一青

むかうとたかきやまめの葉らい　九董

玉子酒　生姜酒

吹きやとゆきつもりしやうの玉子酒　太祇

朔日や鶯とよりの日ちく鶏卵酒　九董

高とおもひ子ら割りたまご酒　左墨盃

茶ぶ戸や煮出すぬるまつけ　呂波

ふるえのあくめ名ちう玉子酒　里隆

寒俵乃吹たくさんまきこうも　五雲

蕎麦湯

あのこの笑ひらくふるとふぶ　蕎村

ふりきく蕎麦湯ふるう言ふ人　蕪村

二三椀のこゝろほくふるとふぶ　雅因

膾　輝　霜鐵

競ひつゝ膾乃くもやゝ寒ぶ尾　呂波

旅人やひのうとをらふ窓乃雪　やま

ちもやけぶくまめや冬ぶ雪　二柳

冻

ぶつゝ目ふ面ふしふかうむ　太祇

雪皆　綱夫

雪ふるゝ生ふうゝ世ふ人　春義

[illegible]の朝　少童

雪車

橇やとぶがごとくに野を走る　宗文

小舟や雪を川入る炬火し　嘯雨

十二月

乙子朔日

朝早や乙子をいのる寺詣　三嘯

[illegible]ふしをる　立圃

師走

[illegible]帰やきたんの産生　芦村

臼ひうす寺やしたまた市のうる　二柳

百姓乃板戸貫ひ[illegible]ふる　嘯雪

[illegible]ぬ[illegible]雪霰　楚竹

[illegible]を佛ふとれ[illegible]ぶ　句兄

忌日の御飯

六月小日

大神祭

四月十日

天智天皇御國忌

沛玉忘やうれうは戸さゝぬ代　夾宝

沛體沛ト云ふ義

六月小たち

月並祭　元徳

世間ト異ル月並まつりを

神今食

六月小日

正月事始

歯ゝ多乃数もくゝ事始　立圃

河豚事始一日めきあるゝ　蹴通

猪八　温糟粥

猪八や山賤一羽ゆゝ帰　柳几

猪八や枯仏社頭の春風哉　延史

猪八や今ふまんと伊勢ゝ　宗文

猪八や月新たなる星ゝ安　里川

猪ゝ雑炊乃夢ゝ味　惟然

ちくさ粥とかうまや赤ゝ後　尚白

沛仏名　うゝき縁

仏ゝをかくゝ忘し沛仏名　蕪村

仏名や秋乃こゝろをの仏ゝ　石波

云そやうしの舞ちかてはかな　法九
さしあてをれをあまるうき物　左蓋

栢梨勸盃

勅意やかのよきをとん酒乃うち　維舟
栢梨乃ゑやうとしてさきの味　德元

沛藥上

庚辰しれ性をとうはなく上　野水
亡牛童子像はをあるる
うをれ代りをまれに亡牛童子　左兼

花の芽のさきめ

云うしやかの子はさきめ中侍ふ　友元

著駄政

僧うをもうたふ高乃政る　左忠
内侍所神楽
文明や沙ふ内侍乃絵書　西茂
寂勝寺灌頂

大德寺寄山忌

寄山乃こゝ絵うくてをを月　太祇
所言の絵馬

絃うきく神風吹て雲霧ぶ　二月坊

和布刈神事

神乃芝海ゝ通ゝ和布刈ぶ　一有

苔出ゝてゆうゝ社きさゝ志る藻ぶ　夢石

一本社和布ゝ波ゝ神ゝ刈ぶ　路水

めうゝすや潮ゝ引ゝく皆社吉　麦丸

追儺

今年ゝ鬼小ゝ追儺流　乙秀

なゝゝふ社ゝゝ大内裏　岩山

波ゝゝ鳴ゝゝ追儺音　路通

住僧ら鬼となりきと嘆てゝ　天牙

鬼やゝゝ裏社ゝも空ゝ久ゝ　石波

星高く鬼追ふ小足りきと　東蓋

節分

芝ゝやよん神子参ゝ神乗堂　石波

節分やなゝゝて久ゝ親ゝ　一蘭

ゝまゝゝ内裏出ゝや小提灯　太祇

年ひゝゝ後ゝ伏ゝや言社小町ち　芝村

立條天神祭　白本

方社左ゝゝ如天神祭ゝ　友元

ふ細工なるものゆゑ花白本多　方山

夏寺

まあうちや鬼も出しうん力瘤　寿政

夏寺やこの年みすぼらしく打寝く　元山

寒舟

ものうき志ぢく時うち寒水　与弥

寒ふまよりけのきこゑ初ものう　大祇

住乃江の岸よりすぐや寒ふき　麦川

やとなれ一ぱうきやゆかり永　谷波

寒舟枕ものしう神多分ものも　一巴

杉風子の江戸広の初学んで寒ふき　夢之

鶏頭

枝ものし　立圃

枝やこの七夜のくりる軒　巴山

一ぱうく枝さきうつるくもち　桃隣

日ぬけ小埴ふく軒乃鶏うる　麦丸

軒通くく鶏うり小ふ初つるぶ

瓦葺

世くくきの夜の面青や瓦葺し　風葉

寒ぶきたのくきたのくきり瓦葺　太祇

ふんとう小家立迄や瓦葺し　存義

先生とゝのすゑとゝ屋敷に　石波
祥月　二百とせあや屋敷に　太祇

吉田大祓

祓すと人の宮ゐる吉田とも　宋阿

大原雑古寝

孫木社立ゆゑもなれさうまぶり　蕪村
岩ゐ雪乃巷ハゆうゝき雑寝樣　喜政
おりふしを神よたのめるさらまぶり　巴風
うき橋乃口ゝうハゝとなさうゝ称ぶ　西秀

静宗初冬

かゝる世を又来ん世の中ゝ　宗瑞

雑交

竹年社を注しき新乃情者　麦天

年内立春

百雪小春をみ立めるゝ十月とと　石波
年社内の春やいさうゝ身の苔　大祇
春や来しまやけきん破えは　移竹
人中へ出ゝもめ春やとゝ社内　百晴

大晦日

大晦日ゝりゝ巡る系白ゝ　枳風

大こたつ　許六
なりしを知るは乃栖や大こたつか　移竹

除夜

除夜の夜の柏もや大こたつ　仝
あらたまの春の来るや除夜の風乃　淡々

年忘

古書に暫も寄るこの年忘　玉来
ゆくとしを惜むくらべの年忘　蕪村
年忘やゆく年乃古刀鑑に株　仝

大こたつやこの寝つきもこの夜　蕪村
大こたつやまだ明かぬ夜の不寝者　移竹
大年や遠山人ともかぎらず　云国

年惜

人惜しかりしかりあるあるに惜　移竹
人乃来ぬ年ぬすびとや年の惜　岩磨
在賊は誰ぞ紀氏年に惜　樗良
乃年乃野を見ぬ銀飛仰　蕪村
春山に見る金行くものの年惜　蕪村
雪雲を年厚物や年乃菴　移竹

[illegible]たりを[illegible]と[illegible]ふうを　大祇
[illegible]年や[illegible]年[illegible]　年仏
[illegible]のをこのみ[illegible]　馬十
[illegible]と[illegible]て[illegible]　迎之
[illegible]年の[illegible]　石波
年終正祭
[illegible]年[illegible]魂祭　玄朱
岡見
日[illegible]先八日の[illegible]　言丸
[illegible]生[illegible]　石波

冬ノ五十六

[illegible]柳[illegible]　芦渡
[illegible]　夢古
門松[illegible]
[illegible]　言敬
松[illegible]　移竹
春[illegible]　[illegible]
[illegible]米[illegible]　鞍石
[illegible]女[illegible]　風丸
札納
[illegible]祝[illegible]札納め　梅子

衣配

今年ハ衣配あると衣配　蕪太

ゑうとうも計もなき衣ゑう　仝

橋乃むう加るやきぬ衣を　呂波

かりまくらを敲んを敲ん衣配　太祇

年木樵

おとろしや小枝も折ぬ年木樵　蕪村

八十路花一枝あるを木こり　几董

谷城を一奉うを合やゆう木樵　太祇

谷城戸を奉ゑきやゆを木樵　竹阿

煤拂

きぬ〳〵ぬるも過ゆう煤ゆゑし　呂波

すを乳のこゆるあるゆ　福竹

煤掃乃埃うゆや家長ゆ荒　太祇

ゆゆかやゆ家ゆ中乃常ゆる　蕪

すはやゆ女たゆゆ浦乃烟　白流

煤ゆやゆ杉よゆゆる茱萸浅衣　更中

煤ゆ乃ゆ竹ゆ筆を神代ゆを　風芝

すゆやゆ出ひゆ乃ゆ乃朝月夜　太蕪

餅搗　餅花　餅筵

もちつき乃霞乃石臼にて
餅つきや梵天火のうるゝ嫁の顔　方山
一くさや餅搗臼のワすれ草　石波
百姿の春のゝよりはなちそめ　百子
春乃ゝ時ゝ清し餅　延　以女
節句作　蓼太
えりぬ紙記もゝ　なり　節句　玉角
椀久のまつとなる節句　蓼太
節句やうゝゝ雲ふ宮ぬ　春川
何乃代の春ともたれし節句　風樣

節句より迄こまれ乃うゝ
秘ゝ　ぬきう　歳や　節句　三校
節句作や面つまれぬ小風呂　石波
節句やゝ白切みゝ　洗ひ　蕉村
節句やゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　移竹
蹴通
蛭子蓼　羽子板ゝ
沛宮あゝ蛭子蓼ぬきゝ　移竹
羽子板乃ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　方山
椿橋栗蓼

星佛壹

星仏戸柳ものうく帰るぶ　壹角

寒聲

寒さや何を親なき小柏子　几董

寒声や古郷の一枝ゝ子聖　苔村

寒さやや冬極るゝ新川向い　牧童

寒ゝやゝ京を住み乃能太夫　石波

寒晒

尾を延てつまる紅赤ゝ寒さ哉　由平

寒さ哉ハ止ぬ日本ゝ寒さ　苔村

寒さあるゝ乃身ゝ乃ふる野しぶ　太祇

寒さ垢離や一年ゝ乃角力取　几董

寒さ垢離乃風ゝ乃ふる歩ぶ　石波

切ゝ寒さ乃ほんまの寒さ哉　宇及

寒念仏

利根ゝ戒ん寒さ哉ゝ　夢古

世ゝ縁ゝ乃責ハ昭ゝ寒さ念仏　石波

生涯乃酒のゝすゝゝ寒さ念仏　一扇

寒さ念仏小野ゝ乃ゝ寒さ　許風

嘯茂のうむ家のうかん念佛　移竹
細さてたるけ寒やさ念佛　夢村

別案會

竹者く信もかゝれ少し志　嘉羅
ちいさしていふとなるまさ志　嘯雲
大名ゆ酒なあるまゆ行　太祇
外記節なむし男や弟案会　夢志
西瓜を寒ゆ好くさう志也　呂波
薛宣ゆ京稜宰人やまさ志　移竹
雲運と今日八ゆ七とう志　夢村

年市

年ゆ夢ゆう屋廣の砂ゆうむ夜ゆ　夢志
陳ゆ乃去と屋なんまゆ市　湖月
まゆ市や二ふまゆ迄ゆ快　呂波

乾徒

うゝ徒を志ゝて京ゆ皮屋ゆ　嘯雲
加徒や琴小芳寺ゆ記ゆ　夢村
乾徒や横ゆ本ゆゝ宮の杉　几董

年義

月ゆなき杉のゆゝや年義　呂波

年籠り続く中小みち多き　曉雲

暦　古暦

春雨日ごとに降りて古暦　巴人

人住まぬ枝の雪ふるこゝろ　几董

消残り仰ぐ中にさゝる暦　蕪村

寒月

寒月や孤なる鳴地に徹る　宋屋

寒月の光乃ち死の病やむ　太祇

死に臨む寒月の哭や更け夜　路通

さゝくと雲つく寒月哀しむ　曉雲

寒月や庶民の親戚乃所ゝ好　蕪村

寒梅　冬ノ梅

寒梅ぞ杉の木やきう靡　令

寒梅ひとうちの花の日和ふる　乗交

俗一人ふるふ新や冬の梅　兼石

寒梅に紅ちらゝ新し後う郵　移竹

寒梅や言ふるふ人ぞ乃上　英志

冬椿

冬つゝき羅漢の梅乃時ふる　石渡

冬咲くを冬つゝきぞつゝきぞ　未子

寛政六甲寅歳夏開板

平安書林　文繍堂藏板

麩屋町三条上　勝田吉兵衛

三条御幸町西入　菊舎太兵衛

俳諧発句題林集冬之部　終

天理図書館